

2022年の中国経済は失速

ポイント① 様々な課題に直面した2022年

中国国家統計局が1月17日に発表した、中国の22年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+2.9%となり、市場予想を上回りました。厳格なゼロコロナ政策のもとで行動制限が行なわれたことや企業の生産活動が滞ったことなどが影響し、7-9月期から減速しました。22年はゼロコロナ政策や不動産市場低迷などの様々な課題に直面し、通年の実質GDP成長率は前年比+3.0%と失速、政府目標の「+5.5%前後」には届きませんでした。

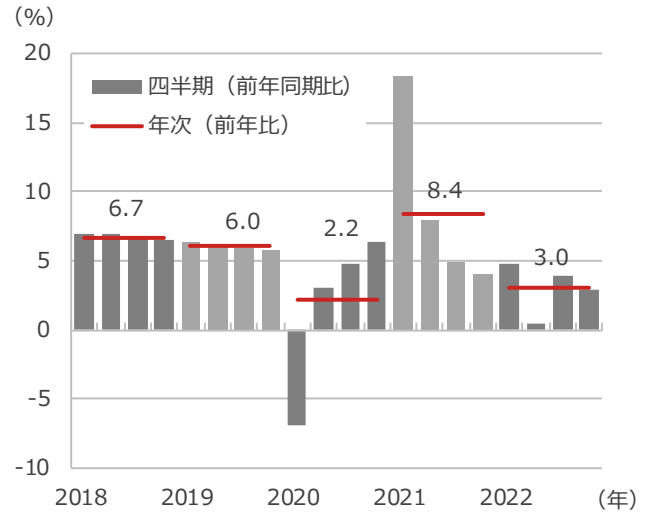
ポイント② 主要経済指標は予想ほど悪化せず

ゼロコロナ政策の急な方針転換で、同日発表の12月の中国主要経済指標は弱めとなったものの、市場予想ほどは悪化しませんでした。鉱工業生産指数は前年同月比+1.3%、小売売上高は感染拡大で外食が減速した一方、医薬品や自動車伸びたことなどから同▲1.8%と、市場予想▲9.0%を大きく上回りました。ただし、13日発表の貿易統計は、米欧などの景気減速を背景に輸出が前年同月比▲9.9%と3か月連続マイナスとなり、ゼロコロナ政策下で内需が不振の中、中国経済のけん引役だった外需が低調で、今後の動向が懸念されています。

ポイント③ 経済回復に向けて、課題の進展が鍵

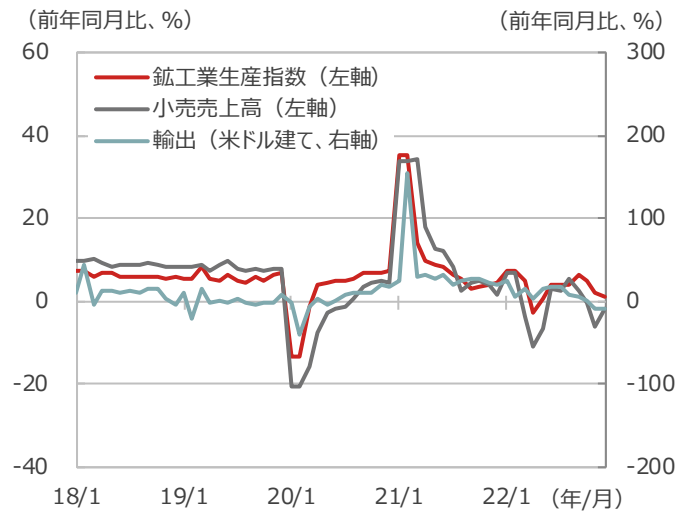
これまで中国経済の重石となっていたゼロコロナ政策が撤廃されたことで、消費を原動力とした中国経済の回復の可能性が見えてきました。中国経済が更なる成長を遂げるためには、ゼロコロナ政策と並んで成長の重石となっている不動産市場の低迷、米中貿易摩擦、IT大手企業への規制などの課題の進展が重要となります。中でもIT大手企業への規制は中国政府が規制を緩める可能性との報道も出ており注目されます。

中国の実質GDP（国内総生産）成長率



期間：四半期 2018年1-3月期～2022年10-12月期、四半期
年次 2018年～2022年、年次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

中国の鉱工業生産指数、小売売上高、輸出



期間：2018年1月～2022年12月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント 1月31日 中国製造業/非製造業PMI (購買担当者景気指数、1月)